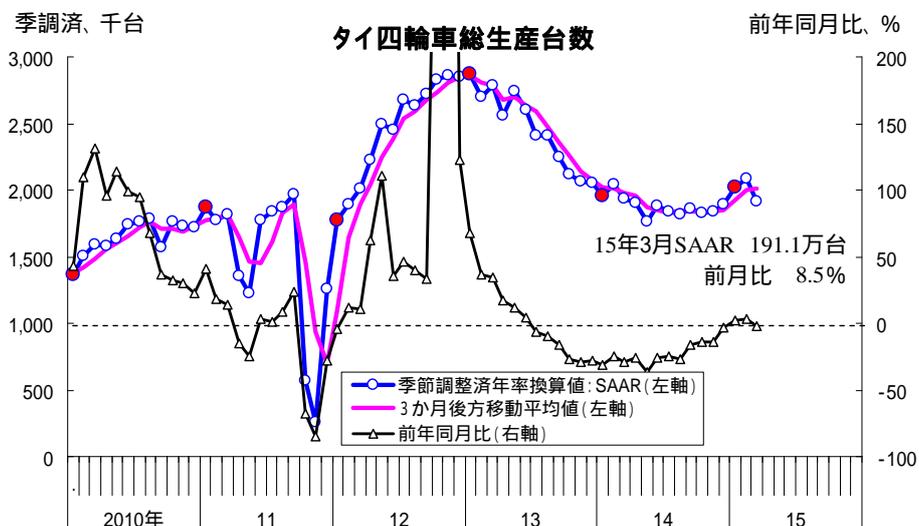


タイ自動車市場月次統計（2015年3月）
ピックアップトラックの輸出拡大は続くが、内需低迷で生産が減少

自動車生産台数の季節調整値が5か月ぶりに減少

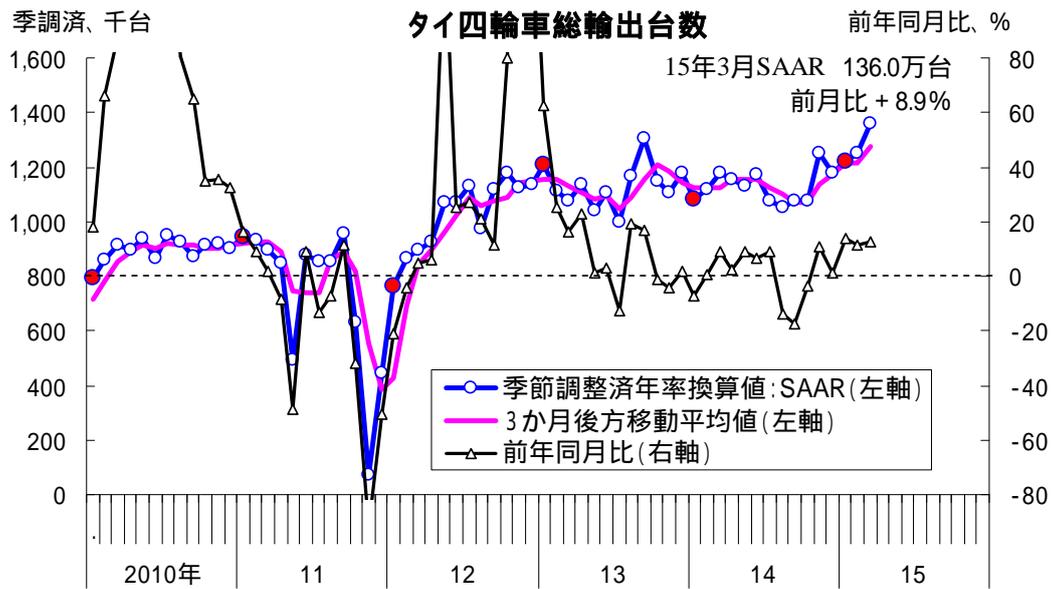
- ・ 4月27日にタイ工業連盟（Federation of Thai Industries）が発表した2015年3月の四輪車生産台数は前年同月比1.7%減の17.8万台と、3か月ぶりの前年割れとなった。季節調整済年率算値(X-12-ARIMAにて当社試算、以下SAAR)も前月比8.5%減の191.1万台と、5か月ぶりに減少した。タイの自動車生産は回復基調が続いていたが、長引く国内需要の低迷が足かせとなり、輸出拡大の効果を打ち消してしまった格好である（図表1）。
- ・ 3月のタイの四輪車総輸出台数は前年同月比12.6%増と5か月連続の前年同月超えとなり、SAARも前月比8.9%増の136.0万台と、3か月連続で増加した（図表2）。
- ・ 3月の堅調な輸出を下支えしたのは、海外拡販が進む新型ピックアップトラックである。三菱自動車のタイ子会社であるミツビシ・モーターズ・タイランド(MMTh)は4月6日、同社の3月の輸出台数が1988年の輸出開始以来過去最高となる37,062台を記録したと発表した。新型ピックアップトラック「トライトン」の輸出拡大が牽引している。後述するが、日産自動車の新型ピックアップトラック「NP300 ナバラ」の海外拡販も寄与したと考える。
- ・ 一方、3月のタイの総販売台数は前年同月比11.7%減と23か月連続で前年を割り込んだ。SAARは前月比3.4%減の80.6万台となり、これまで低位横ばい推移であった国内販売に腰折れ感が出ている（図表3）。
- ・ 3月のタイの国内生産が減少した背景に、タイの国内需要が一段と厳しくなったことで、メーカーが生産調整を行った可能性が考えられる。今後はトヨタ自動車の新型世界戦略車の生産も始まり、輸出が生産のけん引役となる状況が続くと考えるが、今後の国内販売の状況次第では、国内生産が一進一退の神経質な展開になる可能性もでてきた。

図表1 自動車生産台数のSAARは5か月ぶりに減少



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数のSAARは3か月連続の増加

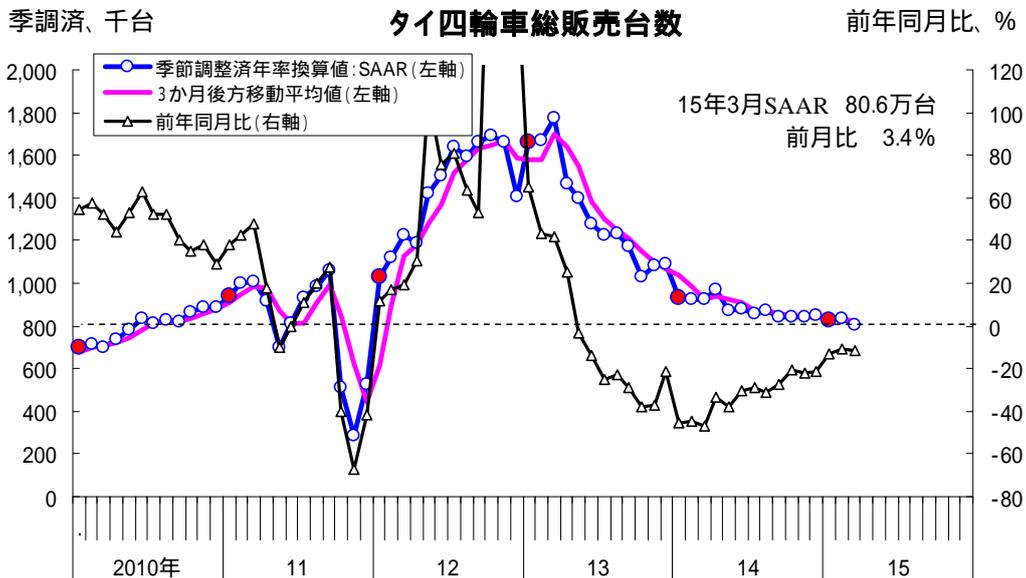


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表3 国内販売には腰折れ感



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

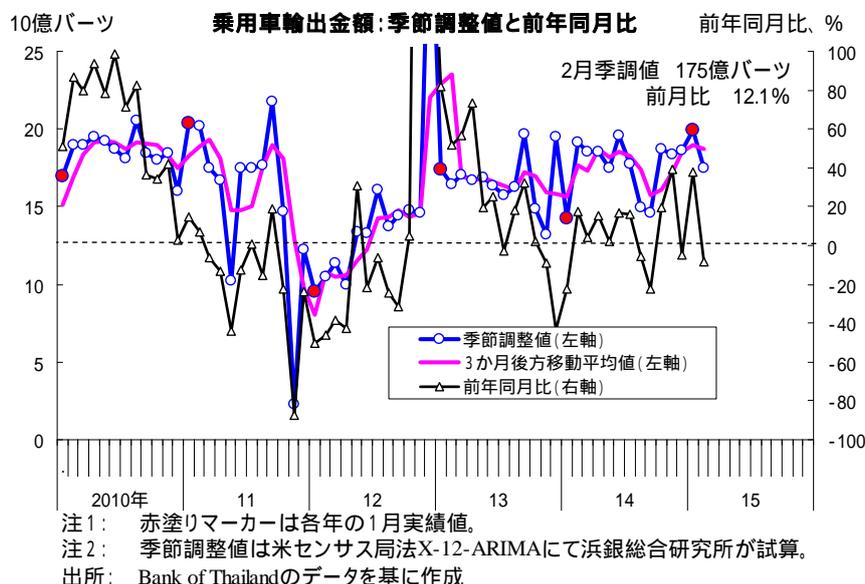
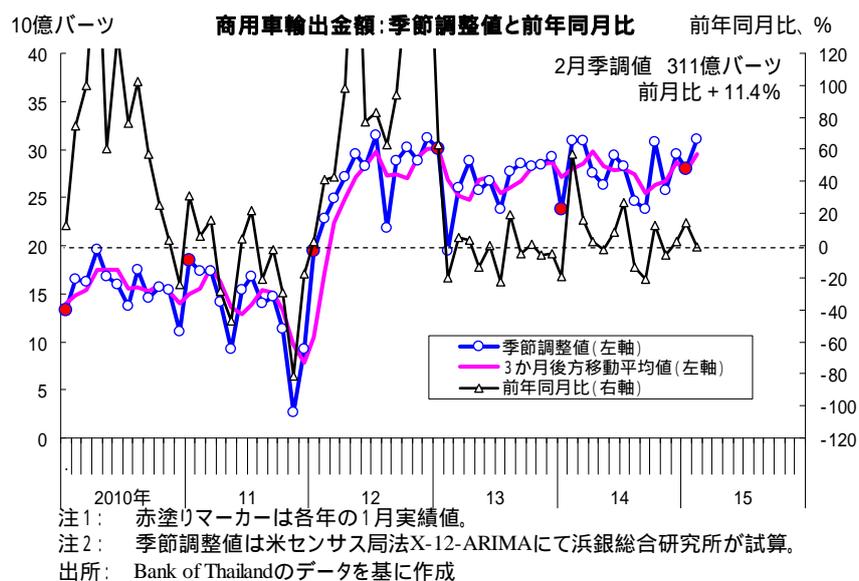
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

ピックアップトラックの堅調な輸出拡大が進む

- ・ 図表4では、タイ中央銀行が公表している商用車（主にピックアップトラック）と乗用車の輸出金額の推移を表している。直近で入手可能なデータは同行が3月末に発表した15年2月の貿易統計となるが、ピックアップトラックの輸出が堅調に推移していることが分かる。
- ・ ピックアップトラックの2月の輸出金額（SAAR）は前月比で11.4%増加した。三菱自動車が出社タイ工場で生産する新型ピックアップトラック「トライトン」の輸出を2月9日に開始したことが背景にある。
- ・ 一方、2月の乗用車輸出金額は前月比12.1%減少した。これまで、マツダやホンダ、スズキがタイ工場で生産するグローバルモデルの輸出が拡大していたが、今後、この乗用車輸出が盛り返すかどうかには注意したい。
- ・ なお、業界関係者への取材情報を基にすると、トヨタ自動車は新型世界戦略車IMVのピックアップトラック「ハイラックス VIGO」を5月に販売開始すると予想される。同モデルは、タイ国内向けに加え、グローバル基幹車種として海外市場で積極販売されるモデルである。同モデルの登場もあって、輸出の増加トレンドは今後も継続すると考える。

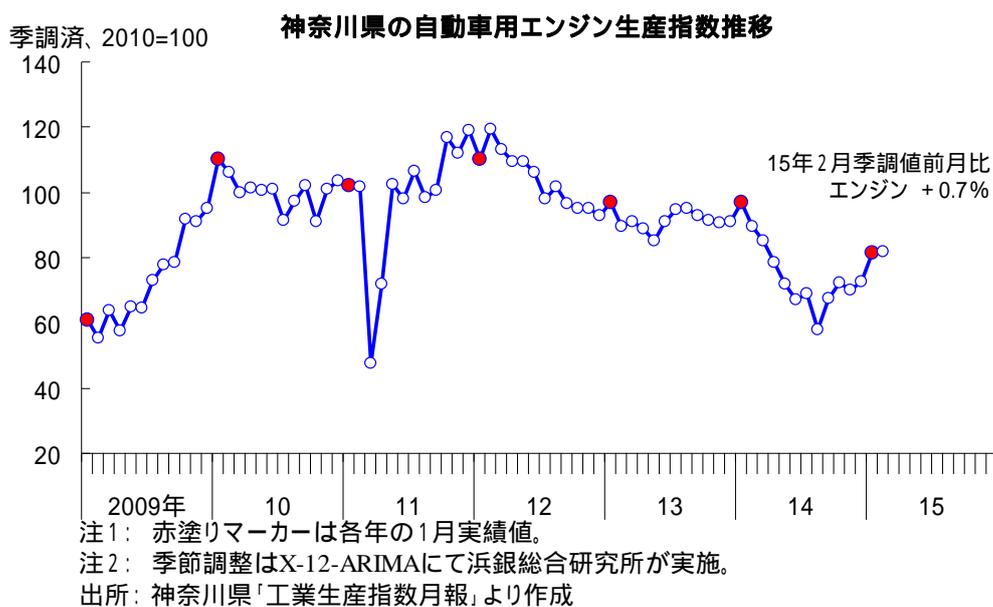
図表4 商用車輸出が堅調に拡大



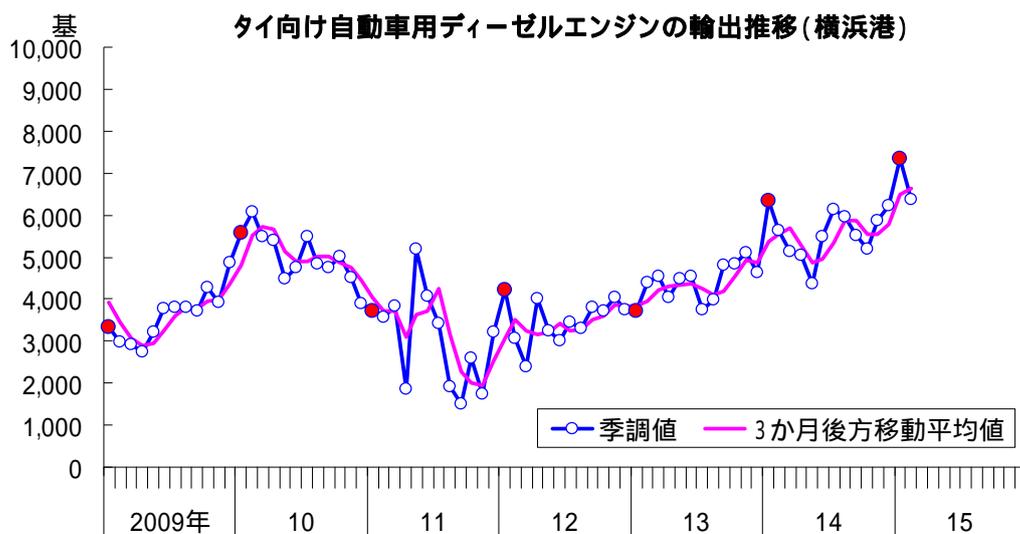
神奈川県工業生産指数と貿易統計から推測できる日産「NP300 ナバラ」の着実な増産

- ・タイのピックアップトラックの輸出拡大の背景に、三菱自動車「トライトン」の世界拡販が寄与していると述べたが、神奈川県の工業生産指数と財務省の貿易統計から、日産自動車の新型ピックアップトラック「NP300 ナバラ」も貢献していると推測することができる。
- ・図表5は神奈川県の工業生産指数月報で公表されている、自動用エンジンの生産指数（季調値：当社試算）である。なお、神奈川県内で自動車用エンジンの生産を行っているのは、三菱ふそうトラック・バスの川崎製作所と日産自動車の横浜工場である。2014年前半に、神奈川県のエンジン生産は大きく減少したが、これは日産自動車・横浜工場から愛知機械工業・熱田工場（愛知県名古屋市）に、一部のエンジン（排気量2.5リッター直列4気筒QR型ガソリンエンジン）が生産移管されたことが背景にある。しかし、9月以降はエンジン生産が大きく盛り返している。これは同工場生産されるYD25DDTi（以下、YDエンジン）という、排気量2.5リッター直列4気筒ディーゼルエンジンの生産が増加していることが背景にあると考える。そして、このYDエンジンは日産自動車タイ工場生産する「NP300 ナバラ」に搭載されているエンジンなのである。
- ・図表6では、横浜港からタイへ輸出される自動車用ディーゼルエンジンの基数推移（季調値：当社試算）を示している。横浜港からタイ向けに輸出される自動車用ディーゼルエンジンの輸出基数は、昨年11月から一段と水準を上げている。これは、前述のように神奈川県のエンジン生産が増加基調に入ったタイミング（一定の完成品在庫を確保する必要があるため、生産から輸出までには多少のタイムラグを伴う）及び日産がタイ工場製「NP300 ナバラ」の輸出先を拡大し始めた時期と重なっている。従って、日産自動車のタイ工場製「NP300 ナバラ」も、三菱自動車の「トライトン」同様に、輸出先の拡大を進めながら、生産を着実に増やしていると推測することができる。
- ・なお、前述のように、神奈川では三菱ふそうトラック・バスもエンジン生産を行っているが、三菱ふそう・川崎製作所で生産されるエンジンは、国内搭載車両向けに生産をしており、タイへは輸出されていない。

図表5 神奈川製自動車エンジンが昨年後半から増産基調



図表6 横浜港からタイへの自動車用ディーゼルエンジンの輸出拡大が昨年11月から強まっている



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: 季節調整はX-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が実施。
 出所: 財務省「貿易統計」より作成

担当: 調査部 産業調査室 深尾三四郎
 TEL 045-225-2375
 E-mail: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報原に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。